05 May 2024

［月刊］キリスト教書評誌

# 本のひろば

HON-NO-HIROBA

ISSN 0286-7001
一般財団法人キリスト教文書センター
1957年7月17日第三種郵便物認可
2024年5月1日発行（毎月一回1日発行）第797号

**出会い・本・人**

立ち上がり、歩き出す　家山華子

**特集 シリーズこの三冊！**

大正期のクリスチャンの様相がわかるこの三冊　八木谷涼子

**本・批評と紹介**

望月麻生監修・著／小林路津子、新井　純著
保育者の祈り　相澤弘典

W・ロス・ヘイスティングス著／小山清孝訳
悲しみに壊れた心はどこへ行くの？　本多峰子

金子晴勇著　「良心」の天路歴程　斎藤佑史

関西学院大学神学部編
関西学院大学神学部ブックレット16
キリスト教の看取り・送り　吉岡恵生

近藤勝彦著　キリストこそわれらの平和　佐々木潤

グウェン・R・P・ノルマン著／後藤哲夫訳
カナダ合同教会　日本での百年　松本郁子

吉岡　繁著／吉岡有一編　汲めど尽きせぬ泉　鵜殿博喜

小林よう子著　これからを生きるあなたへ　與那城初穂

◆近刊情報

◆書店案内

4月の新刊（価格表示は税込）

# ルターの恩恵論と「十字架の神学」

マルティン・ルターの神学的挑戦　須藤英幸 著

プロテスタント神学の源流を解明！

宗教改革の神学的端緒は、信仰義認論（神の恩恵による救済論）の再発見に見いだされる。このルターの神学的突破を歴史的背景から把握し、隠れたる神を説く「十字架の神学」へと至る神学的展開を解明する考察。

●A5判・上製・300頁・定価4、620円

既刊好評発売中！

# ルターの十字架の神学

マルティン・ルターの神学的突破

A・E・マクグラス 著　鈴木浩 訳

宗教改革の最大の争点であった義認論をめぐって、ルターが「十字架の神学」へと至った道筋を、中世末期の神学的背景に照らして検証。宗教改革思想の知的・霊的潮流を最新の歴史的・神学的研究をもとに分析する画期的な試み。

●A5判・上製・308頁・定価4、620円

早期購入特典は『聖書地図』を応募者全員に！

# ［縮刷版］旧約新約聖書大事典

旧約新約聖書大事典編集委員会 編

聖書学だけでなく、古代言語学・歴史学・考古学・宗教学などの成果を結集し好評を博した大事典が、手に取りやすい縮刷版で登場！　早期購入特典として、同時復刊の『［新装復刻版］聖書地図』を応募者全員にプレゼント（応募締切：2024年4月末）。

●A5判・上製・函入・1456頁・定価29、700円

キリスト教古典叢書

# 諸原理について（ペリ・アルコーン）

オリゲネス 著　小高毅 訳

キリスト教で初めての組織神学書

ギリシア教父最大の聖書解釈者であるオリゲネスの主著。神、人間、世界についての哲学的な試論であり、キリスト教史上初の体系的な神学書として知られる。ラテン語訳からの翻訳に加えてギリシア語断片の翻訳も併記した改訳決定版。小品『ヘラクレイデスとの対話』も収載。

●A5判・上製・534頁・定価8、580円

オンデマンド版復刊

# ローマ人への手紙講解3

榊原康夫 著

●四六判・並製・266頁・定価3、630円

# アウグスティヌス著作集 第28巻 三位一体

アウグスティヌス 著　泉治典 訳

●A5判・並製・592頁・定価8、250円

教文館　〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
電話 03-3561-5549（出版部直通）《呈・図書目録》
キリスト教の書籍やCD、グッズのご注文は〈e-shop 教文館〉http://shop-kyobunkwan.com/ まで！

出会い 本 人

# 立ち上がり、歩き出す

――家山華子

私はあまり多くの本を読んでいるわけではないのですが、進むべき道に悩んでいる時、意図せず手にした本がその時の自分の状況に重なり合う経験をすることがあります。そのうちの一つの本を改めて手に取ってみました。ヘルマン・ヘッセの『車輪の下』です。

主人公は、故郷の人々の期待を背負って神学校に入学し、ギリシャ語やヘブライ語を学んでいました。当時私は、神学校の学びを終えようとしていた時期でしたので、主人公に自分自身を重ねて読んでいました。しかし、なぜか当時の私は、途中で読むのを止めていました。それで今回、栞ひもが挟まっていた箇所から先を読んでみました。その箇所は、神学生であることに誇りをもって、真面目に勉強をしていた主人公が、だんだんと横道に逸れていくところでした。自分に重ねて読んでいたが故に、その先を知るのが怖かったのかもしれません。続きを読んでみると、神学校を辞めて故郷へ帰った主人公を待っていたのは、喜びと絶望でした。絶望的な結末の最後を読み終わった後、重苦しい余韻が残りました。

訳者の解説を読むと、著者のヘルマン・ヘッセ自身も神学校を辞めた経験を持っていて、精神を病み、自分自身に絶望していたようです。しかし、晩年著者は次のように書いています。「神がわれわれに絶望を送るのは、われわれを殺すためではなく、われわれの中に新しい生命を呼びさますためである」。この言葉を読んで、救われる思いがしました。著者が絶望から立ち上がることになったきっかけは、母親の祈りでした。私自身、辛いことや悲しいことがあると、自分を悲劇のヒロインのように思ってしまうことがありますが、祈ってくれる人や支えてくれる人がいることに、改めて感謝の思いを強くしました。

絶望の底に置かれ、そこから立ち上がり、歩き出そうという思いが与えられるのも、本のもつ魅力です。

（いえやま・はなこ＝日本キリスト教団箕面教会牧師）

▼シリーズ　この三冊！

# 大正期のクリスチャンの様相がわかる この三冊

八木谷涼子（やぎたに・りょうこ：著述家）

近年、国立国立国会図書館が公開するデジタルコレクションの利便性が飛躍的に向上している。なにがすごいといって、おおよそ１９６８年までに出版された図書・雑誌等のうち、約２４７万点が全文検索できるようになったことだ（２０２４年３月現在。検索対象は順次拡大予定）。特に戦前の教会史に関心のある人には、まさに宝の山といっていい。このコレクションから、今回は大正期のクリスチャンの様相がわかる資料を紹介しよう。

## ■大正初期の教会員たち

まずは『**日本基督教徒名鑑　一名・日本之基督教一覧**』（表題にある「一名」は「別名」の意味）、１９１４年に編纂された当時の「教会員」の名簿である。当時存在したすべての教会が掲載されているわけではないが、教役者のみならず主要な信徒の名前を一望できる点がとにかく貴重だ。その数、およそ1万7千人。

日本におけるキリスト教伝播史と現況をまず解説。名鑑の部では各府県別（外地含む）・各教会・各団体・各学校別に名前と住所、職業をあげ、最後にいろは別索引がつく。プロテスタントが中心だが、東京の一部カトリックと正教会、内村鑑三の東京教友会も載っている。

出版元の中外興信所は、河合篤叙（あつのぶ）と谷龍平が１９１３年に設立した合資会社。元牧師の河合は北海道の郵便局長、中国・大連の学校長などを経て上京、「日本ゑにし会」という結婚仲介所も主宰した。もうひとりの谷は日本基督教会（以下日基）・小石川伝道教会員で、日本力行会（りっこうかい）にも関わり、米国事情に強いビジネスマンである。

本書の予約募集広告によると、信者同士の「名刺交換」が発行の趣意だっ

たようだ。序文には「連判帳」という語があり、名前を出すのは覚悟の表明、一種の信仰告白との主張が見てとれる。

予約広告には、賛助者として植村正久、小崎弘道、平岩愃保（よしやす）、元田作之進、すなわち当時のプロテスタント4教派の巨頭が名を連ねている。彼らのお墨付きをもってしても、信徒の名前は容易には集まらなかった。不賛成の声、催促しても集まらない原稿、売れ行きの不透明さ。序に書かれた苦労話には涙をそそられる。

ところが発売されてみると、本書は好評をもって迎えられた。谷は北米太平洋沿岸諸都市でのビジネス展開を見込んで渡米、多くの購読者と予約者を得る。米国での現地取材をもとに、百以上の教会と9百名近くの在米信徒たちを加えた増補版を1916年に刊行。こちらのデジタル化はされていないが、『日本人物情報大系 第97巻（宗教編7）』（皓星社・2002）に収録されている。

こういう職業の人が集っていたのか、あの著名人（その家族）はここの所属だったのかなど、発見は多い。当時は都会でも教住近接（教会と信徒宅が近い）が一般的だったこともわかる。

この名鑑は2巻しか出ていない。まず所長の河合が興信所を去り、次に谷が再度の渡米中にスペイン風邪で急逝したからだ。その後も刊行が続いていたら、どれほど貴重な史料となっただろうか。残念でならない。

## ■古参信徒のミニ評伝集

次に紹介するのは『**基督者列伝　信仰三十年**』（警醒社書店）である。1918（大正7）年8月に設立30年を迎えた警醒社は、30年以上の信仰もしくは伝道歴をもつ信徒たちの名前をまず各教会に問い合わせ、約2千5百の名を集めた。そのなかから情報提供に応じた男女を、一部顔写真つきでまとめたのがこの本。対象はプロテスタントのみで、カトリックや正教会は入っていない。

わたしはこの方々の名前を表計算ソフトに打ち込んで整理したことがあるのだが、そのデータによると収録者は858名。教派別では、組合派362、日基197、メソジスト137、聖公会102名ほか。そして教会別にみると、最も多くの評伝を提供したのが組合派の神戸教会、日基の富士見町教会、以下組合派の京都、大阪、平安、安中教会と続く。

編纂の実務（材料収集、原稿作成、校正）に当たったのは、東京の本郷組合教会員で、当時月刊誌『開拓者』*の

編集発行人だった有富虎之助である。彼は海老名弾正主筆の『新人』*編集部時代、「教界人国記」という府県別のクリスチャン紹介記事を断続的に連載していた。その取材力と人脈が大いに発揮されたのが本書だといえる。

今日の信徒に読み物として利益を与えるにとどまらず、後日キリスト教史を編む者にとっても有益な、貴重な史実を蔵する書。有富はそう自賛している。たしかに本書を参考文献にあげた書籍や論文は数多い。他の事典では得られない情報が見つかって、助けられた経験がわたしにもある。

有富は本書をもとに「回心の動機に対する考察」「回心年齢に関する考究」という記事を残した（『開拓者』*１９２２年１月号＆５月号）。初代信者はどんなきっかけから何歳くらいで入信する人が多いのか？　国会図書館のデジタルコレクションからお読みあれ。

## ■戦前の基督教年鑑

３冊目は『**基督教年鑑**』。この表題の年鑑がはじめて世に出たのは１９１６年（大正５年版）である。１９１３～１５年編纂の『教会便覧』（これもネットで読める）の流れを汲むもので、発行母体は、日本基督教会同盟（大正15年版からは後継の日本基督教連盟）。この同盟に加入している組織、すなわちプロテスタントの情報を中心に、１９４１年（昭和16年版）まで刊行された。なお戦後の同名年鑑はキリスト新聞社（１９４６年設立）の発行で、ダイレクトな関係はない。

同時代の教会人が認識するキリスト教会の過去と現在を知るには、必読の書である。歴史の概論から始まって主要教団組織・団体等の沿革、教会・教役者・宣教師・諸団体リスト、最後に年表。大正７年版からは外国人宣教師のリストや統計も加わった。とはいえ、府県別の教会リストや年表が消えた年もあるので、利便性には版毎に濃淡がある。

現在読める21年分のなかで特定の１冊を紹介するとしたら、発行元が「同盟」から「連盟」となった大正*15年版（１９２５）をあげたい。前号から３年ぶりに出たこの版から、天主公教会と日本ハリストス正教会の教会所在地・教役者名が載るようになったからだ。「基督教」と銘打った年鑑にようやくカトリックと正教会の情報が加わり、連盟の設立目的のひとつ「日本に於ける基督教諸団体の親和協働」が一歩進んだわけである。ただし無教会の集会所リストは見当たらない（ちなみ

に、それが載るのは戦後の年鑑1958年版以降)。*

ハワイが中心だった在米日本人教会のリストに北米大陸が追加され、「フース、フー(Who's Who)」なる教役者や教師の略伝が登場するのもこの年からだ(掲載順位がABC+年齢順というのがユニーク)。外国人宣教師の来歴も簡単に参照できるのはありがたい。

とりわけ興味深いのは「基督者海軍士官名簿」だ。瓜生外吉(うりゅうそときち)海軍大将はもちろん、池澤夏樹が小説『また会う日まで』(朝日新聞社出版・2023)に描いた秋吉利雄大尉の名前も見出すことができる。

それにしても、都会の大教会の信徒数には驚くほかない。大正5年版によると、日基の富士見町と海岸教会、組合派の神戸と本郷教会は千人を超えている。そのような時代が確かにあったのだ。個々の教会データは組織毎の年鑑や便覧がいちばん詳しいはずだが、教派を縦断して数字を確認できる年鑑の利便性は大きいとあらためて思う。

最後に。以上の三冊では手薄となっているカトリックと正教会の情報は、定期刊行物の『声』*および『正教時報』*から得ることができる。国会図書館が開いてくれた過去への扉をくぐって、先人の証しに触れてみてほしい。

【注】タイトル脇に*印のある本をご自身の端末から閲覧するには、国立国会図書館(https://www.ndl.go.jp/)への利用者登録が必要です(無料)

**『日本基督教徒名鑑——一名・日本之基督教一覧』**
中外興信所
1914年刊
https://dl.ndl.go.jp/pid/943872

**『基督者列伝——信仰三十年』**
警醒社書店
1921年刊
https://dl.ndl.go.jp/pid/963340

**『基督教年鑑——大正5年』**
日本基督教会同盟
1916年刊
https://dl.ndl.go.jp/pid/944163

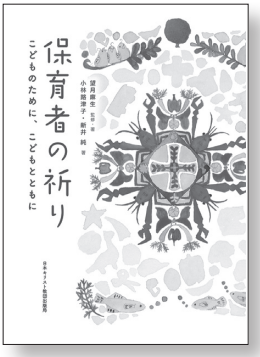
本文中、以下の大正15年版を取り上げていますが、この版は利用者登録をしていないと開くことができません。大正5年版のほうは登録なしで読めます。

**『基督教年鑑——大正15年』**
日本基督教会連盟
1925年刊
https://dl.ndl.go.jp/pid/985878

†本・批評と紹介

# 保育者の魂の成長のために

〈評者〉 **相澤弘典**




**保育者の祈り**
こどものために、こどもとともに
望月麻生監修・著
小林路津子、新井　純著

「お祈りの言葉がわからない」――キリスト教の幼稚園や保育園に就職が内定した学生たちが共通して抱く不安です。学生時代に週に2回の礼拝に出ていたとしても、保育実習や教育実習でいざ自分が祈るとなると、どう祈ったらよいのかわからないのです。

そんな不安や悩みを抱く学生たちや保育者に、この本を勧めたいと思います。保育者のなかには、キリスト教主義学校やキリスト教の保育現場ではじめてキリスト教と出会った方も大勢いることでしょう。そうした方々にぜひこの本を手にとっていただき、日々の保育の引き出しに祈りの言葉を加えてほしいと思います。

本書にはキリスト教の保育を理念とする幼稚園、保育園、認定こども園でそれぞれ働く3人の園長たちによる、あたたかく愛に満ちた62の祈りがおさめられています。子どもたち、保育者へのまなざしを感じることができます。

「こどもと祈る」の章では、園の日常における様々な場面を想定した祈りが収められています。大きな行事やドキドキした時の祈り、でっかい泥団子を「神さまに見てほしい」という祈りなど、子どもたちの気持ちに寄り添った祈りが綴られています。保育者が読めばきっと「あるある」と思いながら、時にはニヤッと笑いながら、「このように祈ってもいいのだ」という安心を得られることでしょう。

もっともわたしの心に刺さったのは、「わたしが祈る」の章に収められた、「保育者の祈り」です。すなわち、子どもや家庭のために心を痛めたり、人間関係で悩んだり、厳しい現実に直面して「やめたい」と思ったりする保育者自身が祈る祈りです。

保育現場は楽しく笑いにあふれるばかりではなく、心も

体も深く傷つくことがあります。「祈れない」との思いにとらわれることもあります。だからこそ、この本の中の祈りの言葉に支えられることがあるはずです。

「キリスト教の祈りについて」の章では、簡単な祈りの作法や祈りの気持ちといった、祈りに関する大切なポイントについても触れられています。「キリスト教保育」の授業で参考書としても使えます。

保育者養成校における働きを通して、「世界は保育でできている」ことを実感しています。多くの人が子ども時代に何らかの形で保育を経験し、保育者と出会っています。人生の基礎が培われる大切な時期を共にする保育者は、子どもたちにとって非常に大切な存在なのです。実際、わたしが勤める頌栄短期大学には、小さい頃の出会いによって、保育者を志したという学生も少なからずいます。

上手で立派な言葉によるものだけが祈りとなるのではありません。保育者が、本書を手がかりにして、明るく軽やかな音楽のような祈り、魂のうめきのような祈りなど、祈りの言葉を豊かにしてほしいと思います。

「おわりに」で著者が語るように、「あなたにしか祈れない、あなただけの祈り」は保育現場で生まれます。子どもの笑顔のために労を惜しまない保育者たち、保育を通して世界をつくる保育者たち……。そんな保育者の魂の成長のために、本書の祈りの言葉が力になってくれるものと信じています。

（あいざわ・ひろのり＝学校法人頌栄保育学院理事長・院長）

（B6判・九六頁・定価一三二〇円・日本キリスト教団出版局）


24作品をあらすじで紹介する

**あらすじで読む キリスト教文学**

**芥川龍之介から遠藤周作まで**

**柴崎 聰 監修**

キリスト教を伝える文学作品はキリスト教徒によるとは限らない。『南京の基督』（芥川龍之介）、『こころ』（夏目漱石）、『蟹工船』（小林多喜二）、『よだかの星』（宮沢賢治）、『侍』（遠藤周作）など、キリスト教のエッセンスが含まれる名作24作品をあらすじで紹介。

●四六判 並製・160頁・定価1,760円

説教者必携の実践的な1冊

**説教ワークブック**

**豊かな説教のための15講**

**トマス・H・トロウガー／レオノラ・タブス・ティスデール**

**吉村和雄 訳**

米国イェール神学校の説教の授業を紙上再現。「よい説教とは何か」「聖書の読み方」「聖書釈義の仕方」「月曜日から日曜日までの毎日をどう過ごすか」など15の講義を収める。

●A5判 並製・200頁・定価3,300円

日本語で書き下ろす聖書注解

**VTJ 旧約聖書注解**

**エレミヤ書 1~20章**

**大串 肇**

本文や文体、内容が非常に難解なエレミヤ書。40年近くにわたってエレミヤ書研究に従事してきた著者が最新の研究を反映させながら丁寧に解説する。

●A5判 上製・616頁・定価9,240円

**日本キリスト教団出版局**

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18

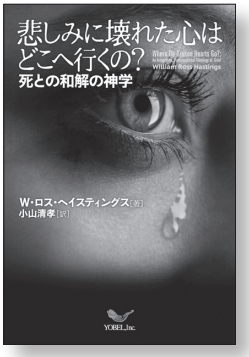
☎03-3204-0422 FAX 03-3204-0457

E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp《価格10%税込》

https://bp-uccj.jp

# 愛する人を失った悲しみとの和解

〈評者〉**本多峰子**




**悲しみに壊れた心はどこへ行くの?**
死との和解の神学
W・ロス・ヘイスティングス著
小山清孝訳

愛する人を病や事故で失った時の喪失感と悲しみは、生きている限り誰もが体験し、乗り越えなければならないものである。でも現実には、この悲しみは簡単には乗り越えられないものである。私たちの多くは、誰かしら大切な人の死を心の深くに抱えたままで何年も何十年も、喪失の寂しさを乗り越えられなかった経験があり、あるいは、これからそうした経験をするだろう。

著者W・ロス・ヘイスティングスはカナダのリーゼント神学大学教授で、現場の牧会者でもある。本書は、そのような著者が、27年連れ添った妻シャロンを癌で失った後、何年もその悲しみを見つめ、多くの神学理論や考察を重ねたのちに見出した慰めを、論理的、かつ実存的に語っている。彼は8年間、喪失感を克服することができなかった。しかしやがて神が自分の悲しみを共にしてくれているということ、著者の言葉で言えば「神との悲嘆の共有」に、慰めを見出したのである。それは彼の神学的専門分野である神の三位一体的関係性の考察と結びついた発見でもあった。

人が死を前にした時のショックと悲しみと向かう書は数多い。その中で本書の特徴は、死にゆく本人ではなく、残された者の精神的な苦しみに焦点を絞り、同じような喪失に苦しむ人々の助けになることを意図していることである。著者は自己の体験から、安易な慰めを差し出すことは不毛であると認識している。たとえば、悲しみの中にいる人に、あなたは死んだあの人に天国でまた会える、と言っても、何も助けにならない。むしろ著者は、人間が喪失感と悲しみを抱えたまま、それでも慰めを得ることを言う。愛する人の死はまず、激しいショックをもたらす。これは、相手が前もって死の宣告を受けていても、シャロンのように緩

和ケア病棟にいたとしても、同じである。続いて激しい嗚咽と悲嘆が来る。その悲しみを終えることは決してないと、著者は言う。「徐々に激しさは失せてゆくかもしれないが、それを決して乗り越えることはできない。それは生涯、刻まれている。唯一の疑問は、それが、あなたに対して、どのように刻まれるかということである」と言うのである。三位一体の神は人間を関係性の中に造った。他者との関係は私たちを作っている。それゆえ、人間は愛する人を失った時、自分の一部を失う経験をする。

しかし、死によってすべてが失われることはない。人間には神の似姿が与えられ、悲しみを分かち合う同じ神の民も与えられている。「我々が対人関係的な性質をもっていること、神の存在の中に我々が存在していることは、死に遭遇した時に慰めをもたらす。事実上神は、神と死んでいく者との関係を壊さず、そのことは、後に残され、喪失と悲しみの中にある者への慰めにもなる。人は死んでも、神の関係性の中に保たれている。残された者もまた神の内にあり、神とその民は我々の悲嘆を共有していてくれる。

著者は、慈愛に満ちた神から自分がいただいた慰めによって多くの人を慰められるように（Ⅱコリ1・3－4）願って書いたと言う。本書はこの願い通りのものである。

（ほんだ・みねこ＝二松学舎大学教授、八王子栄光教会牧師）

（四六判・二九六頁・定価二二〇〇円・ヨベル）


Soli Deo Gloria

**燃え尽きない柴**

**出エジプト記1章-6章1節による説教 上**

**中島英行**
*NAKAJIMA Hideyuki*

**出エジプト記から「さあ，宣教へ行くがよい」とのメッセージを，小川武満牧師の宣教実践から「非戦平和と無医村医療伝道」の熱意を聞く．宣教への取り組みを強くうながされる．**

四六判・並製
定価 1,760［本体 1,600＋税］円
ISBN978-4-86325-155-7

SDG

株式会社 **一麦出版社**
札幌市南区北ノ沢３丁目 4-10
TEL（011）578-5888
http://www.ichibaku.co.jp
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

# 霊性を「良心」で読み解く

〈評者〉斎藤佑史

**「良心」の天路歴程**
隠れたアンテナ効果とは？
金子晴勇著

霊性と言われても、宗教学の専門家はともかく、一般の読者にはその概念をすぐに思い浮かべることが難しい言葉ではなかろうか。本書はそのなじみの薄い言葉について長年マルティン・ルターを中心にキリスト教思想史研究に力を注いできた碩学の著者が、良心というキーワードで、一般の読者にもわかるように東西古今の古典と言われる宗教、哲学、文学作品を取り上げ読み解きながら、霊性の理解に資することを試みた書である。

ただし良心と言っても、その意味する範囲は幅広く、起源を辿れば、ギリシャ悲劇や旧約聖書の時代まで遡るとして著者はまずヨーロッパ精神史の観点から良心概念を辿っていく。その中で最も重要の役割を果たしているのはルターであるとして、本書ではルターの良心の問題が中心に論が展開される。ルターほど「霊」の観念を「良心」と結び付けて思索した神学者は他にいないからである。そこで著者は手始めに「良心」の問題を日本人の恥の意識と関連付けて分析する。日本と欧米の文化の違いを、恥と罪の文化の違いとして問題提起した文化人類学者ルース・ベネディクトの『菊と刀』は、日本と西洋の比較文化を考える上で欠かせない書であるが、本書でも「良心」の問題を恥と罪の文化の違いとに注目して捉える。その違いは端的に言えば、他者の目が気になる文化と、他者の目がなくても自分の犯した悪事は罪として罰せられるという文化の違いである。ドイツ中世史家の阿部謹也はその他者の目を「世間」という言葉で西洋の「社会」と「個人」とは違う日本の問題を追及したが、本書ではその世間の目が気になる日本文化の恥の文化と、西洋のキリスト教の罪の文化と対比させて、恥の意識と「良心」の関係を見ていく。そこで取

り上げられるのが夏目漱石の『こころ』に見られる恥と良心の関係である。そこでは恥の意識が「良心」を抑止するという日本人特有の恥の形態が主人公の心理分析から鋭く読み解かれていて大変興味深い。本書の魅力は、何よりも良心の問題を東西の名作と言われる文学作品の人物たちを通して検討されている点にあると言ってもよいであろう。

ところで本書は、恥の問題は日本だけではなく、欧米にもあると言って比較検討し、公恥、自恥、羞恥の恥の三形態の説明後に本論とも言うべき良心の現象について詳述される。注目すべきは、恥にも三形態があるように、良心現象にも社会的、倫理的、宗教的な三形態があり、しかも恥と同様、段階的な差があると言って、これも古今東西の古典作品を引用しながら紹介、考察されていることである。

社会的な良心の問題は、たとえばドストエフスキーの『カラマーゾフの兄弟』、太宰治の『人間失格』、倫理的な良心の問題は、シェイクスピアの『リチャード三世』、ゲーテの『ファウスト』、ホーソンの『緋文字』などの分析によって検討される。その上で最後の段階として宗教的な良心の問題が、ルターの良心理解と漱石の『こころ』の問題を中心に展開されるのである。本書ではその他、良心概念の多義性と統一性などを含め、良心の問題がさらに幅広く考察、紹介されているが、いずれもよくまとめられていて、良心で読み解かれた霊性というものが明らかにされている。霊性の日本と西洋との違い、比較宗教思想史に関心ある人にはぜひ一読を勧めたい書である。

（さいとう・ゆうし＝東洋大学名誉教授）

（四六判・三〇四頁・定価一九八〇円・ヨベル）


ヨベルの新刊案内

普遍啓示論
そこに立ち現れる神
傘の神学1
濱 和弘著
小金井福音キリスト教会牧師

神も仏もいないこの世界。それでも神はいる、と語り得る矛盾と希望。3・11。あの巨大な震えが、拠って立つところの神概念、信仰、救済論を揺るがせた。魂の救いだけではない、人間存在そのものを根底から掬いとる福音はどこに？「普遍啓示論」（一般啓示論）にまで踏み込んだ一牧師のシリーズ第1弾。四六判・二三二頁・一九八〇円

神と共に生きる
聖書の基本がわかる十七話
長田栄一著
日本イエス・キリスト教団大久保めぐみ教会、姫路城北教会牧師

四六判・一三四頁・一五四〇円

基本と要所を押さえれば、聖書の森全体が見渡せる！
創世記からヨハネ黙示録までの聖書全66巻を17回完結のブログ連載で一般の方々に伝えたい。できるだけ分かりやすく、できるだけありのままを―至難の業に挑んだ一牧師の情熱と祈りの結晶が本になった！

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
出版の手引き / 呈 （税込）

†本・批評と紹介

# 「その時」に備える教会や家庭での学びのために

〈評者〉吉岡恵生

関西学院大学神学部ブックレット16
**キリスト教の看取り・送り**
第五七回神学セミナー
関西学院大学神学部編

関西学院大学神学部は、毎年二月に「神学セミナー」を開催している。このセミナーの目的は、神学や教会が対峙している現代の諸問題について、神学者や牧師、またそれらの諸問題に関わる専門家らが共に対話をしつつ神学することである。

第四二回神学セミナー以降、毎回の講演や礼拝は収録され『関西学院大学神学部ブックレット』として出版されてきた。シリーズ16冊目となる本書は、二〇二三年二月二〇日に「キリスト教の看取り・送り」をテーマにとして開催された、第五七回神学セミナーを収録したものである。

毎年このブックレットを読むたびに、時宜を得たテーマ設定や、登壇者それぞれの生きた声に、神学の躍動のようなものを感じている。本書の冒頭にも書かれていることであるが、現代は「『the 神学』というものが崩れ去った時代」である。急速に変化する時代の中で、これまでの常識や正しさが問われる時代を迎えている。デジタルの世界では絶えずアップデートが求められるが、神学や教会にもアップデートは必要である。もちろん、何でも時代に迎合して変化させれば良いというのではない。守るべきものがあり、変えてはならないものもあるだろう。しかし、もしその変わらざるものが、単に慣習として形骸化し、本来の目的を果たせない存在になっていく時、それはもはや、神学や教会の躍動を妨げる重石でしかなくなってしまうのである。本書には、その重石を動かそうと果敢に挑む、「現場」を知る人々の生の声が響いている。

主題講演者として登壇した中道基夫氏（関西学院院長・関西学院大学神学部教授）は、看取りや葬送に関する現代の傾向を分析しつつ、「個人化、多様化、小型化、単身化、

オンライン化、格差拡大等」をキーワードとして掲げている。かつて人の死は、家族や地域といった共同体の中で起こり、人の死がもたらす悲しみもまた、共同体の中で受け止められていた。宗教もまたその共同体の一部として重要な役割を果たし、特に葬儀においては、なくてはならない存在であることを誰も疑わなかった。しかし今や、その常識は崩壊している。死は個人化され、葬儀も小型化し、無宗教で行われる葬儀も増加している。

中道氏はこのような状況について「葬儀は『弔う』『悼む』『送る』ことから、「処分」へと重点が移りつつあるのではないか」と指摘する。一方、こうした傾向は、死の受容プロセスを丁寧に行うことができないことから、グリーフケアという視点において大いに問題があると言わざるを得ない。中道氏はこの問題と向き合うために、「周産期ケア」から着想を得た「周死期ケア」という新たな言葉を提唱し、死を迎える人と死別を経験する人に対するケアの必要性を語っている。そして、「周死期ケア」においては、牧師や教会が重要な役割を果たすことができるとして、その役割と存在意義について再認識させられる提言が続く。

本書にはまた、中道氏の提言に呼応するように、教会や病院で働く牧師、さらには葬儀社で働く葬儀士などから、現場での葛藤や挑戦について、様々な事例が挙げられながら紹介されている。牧師はもちろんのこと、「その時」に備える教会や家庭での学びのためにも、本書は大いに参考になる一書である。

（よしおか・やすたか＝日本基督教団高槻日吉台教会牧師）

（A5判・一〇二頁・定価一六五〇円・キリスト新聞社）


寄り添いを超える
ディアコニアの視点から考える

キリスト教の看取り・送り

関西学院大学神学部ブックレット

関西学院大学神学部［編］

牧会における重要な役目のひとつである「看取り」。教会に任された業でもある「送り」。古から続いてきた教会の営みを、周死期のケア、家族・遺族へのケア、葬儀などさまざまな視点から、ポストコロナの日本社会における、「看取り」と「送り」をもう一度考える。「死」に向き合ってきた牧師、病院チャプレン、葬儀社職員、教誨師たちの講演を収録。

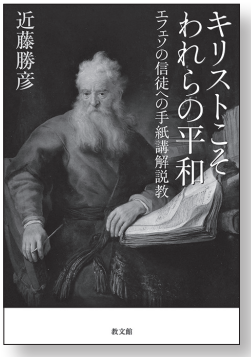
A5判・並製・102頁、定価1,650円（税込）

キリスト新聞社 since 1946
169-0051東京都新宿区新小川町9-1 4F
03-5579-2432　support@kirishin.com

†本・批評と紹介

# 平和の福音を澄んだ響きで届ける説教

〈評者〉佐々木潤




**キリストこそ われらの平和**
エフェソの信徒への手紙講解説教
近藤勝彦著

情熱あふれる大きな本や小さな本を次々と生み出してきた近藤勝彦先生が、一昨年には超大作『キリスト教教義学』上下巻を放ち、昨年にはまじめでのびやかな『わたしの神学六十年』を打ち明け、そしてこのたびエフェソの信徒への手紙の講解説教集をまとめた。

そうか。エフェソ書だったのか。

そういえば、教義学の下巻末の聖句索引を見ればわかることなのだが、教義学の中に、福音書からの引用がダントツに多いのは当然としても、ほかではエフェソ書からの割合が突出している。

バルトにとってのローマ書がそうだったように、取り組んだ聖書講解がその後のその人の神学を方向づけるものである。近藤教義学は明らかにエフェソ書を通気口として呼吸している。

その証拠に、見よ、アナケファライオーシス（万物の再統合）、三位一体の神、キリストの支配、聖徒の堅忍、ユダヤ人問題、キリストの内住、キリストの遍在、キリスト者の完全、キリストの兵士、戦闘の教会、などなど。教義学の中の言葉が、説教の中にポンポン飛び出す。

それなのに説教は難しくない。聖書の言葉がまっすぐ澄んだ響きで届いてきて、私たちを広いところに連れて行く。その壮大さを信徒の心に平易かつ正確に伝えるために、あの教義学の営みもあったのである。

弱体化と分裂、齟齬（そご）と軋轢（あつれき）、敵意という隔ての壁に苦しむ、その渦中の双方のためにキリストは来られた。十字架の中で、引き裂かれていた者たちが一体とされるとき、それはキリストの平和の福音に生かされつつ告げ知らせる教会、伝道する教会となるだろう。

途中から「コロナ」が言及され始める。「あの時期」に突入したのである。終盤には「ウクライナ」が出てくる。始まったのである。オンラインでの礼拝者たちにも「一緒にアーメンと応えてください！」と呼びかける説教の言葉の向こうに、キリストが限りなく大きなみ腕を拡げて、集まることができないまま一致を探ってつながりを求めるみんなを抱え込んでいてくださるお姿が見えるのである。

ところどころ「五〇年前の話」も出てくる。評者が初めて出会った時から風貌が全く変わらず不思議にも老いない先生も、いつのまにか地上でそれなりの年月を経た。「カール・バルトのように神学し、ビリー・グラハムのように伝道する」とのかつての抱負を大言壮語とせずそのとおりに歩んだ人の、力強くほがらかに語る福音の音色を収めたこの記録は、二〇一九年五月一九日から二〇二三年二月一九日の銀座教会の礼拝の記録であり、私たちの時代の記録でもある。

エフェソ書の高峰である三章を説く数回にわたる説教のうち、「内なる人を強くしてくださる神」では、私たちの心の中に住んでくださる「キリストの内住」を語り、次の説教「キリストの広さ、長さ、高さ、深さ」では、私たちみんなをその中にいさせてくださる大きな「キリストの遍在」を語る。この二つが圧巻である。と共に、終わりからひとつ前の説教「信仰者の消息」に出てくるティキコの姿もいい。サウイフモノニワタシモナリタイ。

（ささき・じゅん＝日本基督教団武蔵野教会牧師）

（B6判・二四二頁・定価二二〇〇円・教文館）


**ヨベルの聖書学のご案内**

**携帯版 Q文書**
日本新約学会会長
**山田耕太著**

日本における〝Q〟研究の第一人者が福音書及びイエス理解の深化を願い分かりやすく開示した入門書！「イエスの言葉伝承」は四福音書だけではなかった！**「Q文書」が対訳付・ハンディサイズで新登場！使える・引ける・読める索引付きの決定版。**
ヨベル新書判・一九二頁・一六五〇円

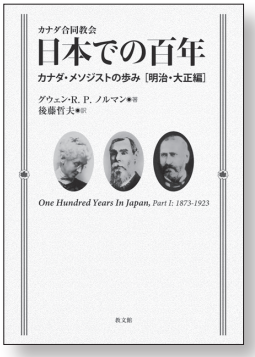
**青野太潮 『どう読むか、新約聖書』** 4刷 新書判・一二一〇円
福音の中心を求めて
**青野太潮 『どう読むか、聖書の「難解な箇所」』** 3刷 新書判・一三二〇円
「聖書の真実」を探究する
**大貫隆 『ヨハネ福音書解釈の根本問題』** ＊在庫僅少
ブルトマン学派とガダマーを読む 四六判・一九八〇円
**大貫隆 『グノーシス研究拾遺』** ＊在庫僅少
ナグ・ハマディ文書からヨナスまで 四六判・二七五〇円
**大貫隆 『原始キリスト教の「贖罪信仰」の起源と変容』** 再版準備中 四六判・二二〇〇円

**ヨベル** *YOBEL Inc.* info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
**出版の手引き / 呈** （税込）

†本・批評と紹介

# 日本に奉仕した宣教師たちの伝道活動に関する貴重な記録

〈評者〉松本郁子




**カナダ合同教会**
**日本での百年**
カナダ・メソジストの歩み
［明治・大正編］
グウェン・R・P・ノルマン著
後藤哲夫訳

本書は一九八一年にカナダ合同教会から出版された *One Hundred Years in Japan 1873-1973* の翻訳書である。原書はタイプ打ちの仮製本で頒布され、おそらく限られた範囲でのみ流通し、広く一般に読まれる機会がなかった。このたび山梨英和中学校・高等学校の元英語教諭後藤哲夫氏のご尽力により日本語訳での刊行となった。カナダ・メソジスト教会の日本伝道を詳細に記録した貴重な書である。

今回訳出されたのはグウェン・ノルマン執筆のPart1にあたる一八七三年から一九二三年までである。Part2にあたる一九二三年から一九七三年までは、グウェンの夫であるハワード・ノルマンが執筆している。ハワード・ノルマンは軽井沢生まれ、父は「長野のノルマン」と呼ばれ、おもに信州伝道に携わったカナダ人宣教師ダニエル・ノルマンである。ハワードもグウェンも共にカナダで歴史学を学び、戦前と戦後に日本各地で伝道活動に従事し、カナダ合同教会本部にも勤務した、日本とカナダ両サイドの事情に精通した人物たちである。

一八七三年に日本で切支丹禁制の高札が撤去されたため、カナダのメソジスト教会は男性宣教師カックランとマクドナルドを日本に派遣し、海外伝道を開始する。一八八二年には婦人宣教師カートメルも来日し、男性ミッションと婦人ミッションによる活動が展開されていく。カナダ・メソジストの宣教地はおもに中部地方であり、都市から離れた地方、僻地、農村にも伝道し、サーキットシステム（巡回方式）により活動した。教会を中心に、教育事業（東洋英和・静岡英和・山梨英和女学校の創設や関西学院の運営への参画、幼稚園の創設等）と社会事業（女性や子どもなど社会的弱者のための福祉・矯風運動など）とを車の両輪と

して、地域に広く伝道を展開した。本書を読むことで、そうしたカナダ・メソジストの特徴が理解されるだろう。

さらに、本書では随所で一九世紀的な宣教事業の在り方が批判されている。カナダ合同教会では一九六〇年代に宣教事業・宣教概念の再考が促され、異文化への無理解、回心の強要、白人中心主義といった過去の宣教姿勢は否定されていった。一九八〇年代に本書を執筆したノルマン夫妻の論点も、手放しの伝道活動の礼讃から距離を置いている。男性宣教師による婦人宣教師への抑圧と紛糾に見るジェンダーの問題、戦前の日本の植民地支配に無自覚だった在日宣教師の歴史認識の問題等への言及にも留意したい。

しかし、本書を通読して感銘を受けるのは、巻頭で塩入隆氏が語られているように、二代にわたり日本での伝道活動に生涯を捧げた「ノルマン家の思い」であり、原書が仮製本のままの出版となった事情である。執筆者ハワードの弟で、外交官、歴史家であったハーバート・ノルマンはスパイ容疑をかけられ一九五七年に自殺、カナダ国内でその嫌疑が晴れぬ当時、ノルマン夫妻の著作の正式な刊行は難しかったという。そうした苦節を経て少数部数が日本に渡り、約四〇年の時を隔てて本書が刊行されたのだった。

日本の近代化の過程で、置き去りにされていた地域に赴き、見捨てられていた社会的課題や弱者に寄り添い、隣人として日本に奉仕したカナダの宣教師の歴史を心に留めておきたい。後半Part2の内容は目次のみ巻末で紹介されている。続編の訳出が俟たれる。

（まつもと・いくこ＝東洋英和女学院史料室）

（A5判・五〇〇頁・定価四九五〇円・教文館）

新刊

**死生学年報 2024**

**看取りの文化を構想する**

東洋英和女学院大学
死生学研究所編
●A5判並製　定価2,750円

「人として」出会う
一人暮らしの「生と死」を支える人たち
浮ケ谷幸代
●
特別養護老人ホームの看取りにおける「ホームカミング」の意義
相澤　出
●
看取りのドゥーラをめぐる文化人類学的考現学
最後の寄り添い人が臨死期をどう変えていくのか
林美枝子
●
生と死の共存する世界に生きる
認知症患者の穏やかな死
大村哲夫
●
非宗教者によるスピリチュアルケア
山本佳世子
●
医療現場におけるチャプレンの宗教性とは
中井珠惠
●
伝記的な生の諸相と二人称の不死
小笠原史樹
●
他、2篇

LITHON［リトン］
〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
TEL03-3238-7678 FAX03-3238-7638

# 聖書の豊かな教え

〈評者〉鵜殿博喜

**汲めど尽きせぬ泉**
吉岡繁説教集
吉岡　繁著
吉岡有一編

この説教集は故吉岡繁牧師が長年日本キリスト改革派仙台教会でおこなった説教のほんの一部である十二の説教を御子息の吉岡有一氏が編纂したものです。そういう意味では御子息の信仰によって選ばれた説教集と言うことができるでしょう。

吉岡牧師は仙台教会の牧師を勤めたあと神戸の改革派神学校の校長を務め、退任後に再び仙台教会の牧師として定年になるまで勤めた方で、巻末にある経歴を見ると、牧師をしながら東北大学で学位を得るなど、学究的な牧師でもあったことがわかります。

この説教集の大きな特色の一つは、二回分の手書きの説教メモが載せられていることです。吉岡牧師の手書きの説教メモは、編者の御子息があえて説教が作られるまでの過程を二回分とはいえ、読者に見てほしいという思いで説教集の中に入れたのでしょう。そこには父親の説教への愛を感じます。この説教メモを見ると、吉岡牧師が聖書を一字一句厳密に捉え、新約聖書が説教の主題となっている場合はギリシア語原典によって聖書をできるだけ正確に理解しようという姿勢が見られ、説教メモがついていない旧約聖書を主題にした説教ではヘブライ語で語の解釈がなされていることがわかります。牧師のみならず私たち一般信徒も完成した説教に至るまでの吉岡牧師の苦労と努力を垣間見ることができます。このようにして作られた説教を毎週聴くことのできた信徒の方々はどれほど幸せであったことか。

十二回の説教はどれも心に響く言葉がたくさん盛られていますが、とりわけ「イエスとユダ」というタイトルの説教では考えさせられました。私たちは一般にユダをイエス・キリストを裏切った悪人と思いがちで、ユダという名

前が裏切り者の代名詞のようになっていますが、吉岡牧師は「イスカリオテのユダは大変な極悪人であり、自分たちとは何の関係もないと考えるのは、恩寵によって生かされている信仰者の態度とは言えない」と戒め、「ユダの罪とは何か？」と問います。吉岡牧師の答えは「それはイエス・キリストの福音を拒否したこと。ユダは恵みによって生きる生き方を取らず、自分の力で生きようとした。自分を主とする心。自分の心に合う限りにおいてイエスに従い、信じた」というもので、つまり、自分中心の信仰がユダの罪であり、それは誰の心にもある罪であるということです。吉岡牧師がこのユダを取り上げた説教で言いたかったことは、ユダだけではなく、人はみな罪人であるということ。「ユダは裏切り、他の弟子たちは弱さのゆえに逃げ去った」。「救いは神の恩寵による。ユダはその恩寵を拒否した」。人間の罪と恩寵による救い、これがユダをテーマにした説教の中心と思われます。

もう一つ、「ヨブの苦難」というタイトルの説教をご紹介します。ヨブ記は難しい書です。神に忠実なヨブがなぜ酷い災厄に遭わなければならないのか、なぜ義人であるヨブが財産も子どもたちも失い、挙句のはてに自らの肉体の苦痛までも耐えなければならなかったのか。

最初に神とサタンの会話があり、サタンの挑発に神が乗る形でヨブの物語は進んでいきます。ヨブは悩みます。「信仰のために、神が要求するすべてのことを一所懸命やってきた、そういう者に災いを与えられる神ははたして公平な神なのかという疑いと、神は必ず自分の信仰を見ていてくださるという想い、この二つの想いが交錯して、ヨブは悩み揺れていた」。最後にヨブは神の言葉を聞いて、「この世界におけるすべてのこと、自分の身に起こる幸いなことも災いも全部含めて、神の御手の中にあるということを知ったのです」という結論になります。人間の罪と神の主権という信仰の基本がこのヨブについての説教の中でも語られます。

この説教集は改革派の信徒だけではなく、広く読まれてほしいと思います。そうでなければもったいない。キリスト教の正統的な神学に基づいたとてもわかりやすく、そして考えさせられる説教集なのです。

（うどの・ひろよし＝明治学院学院長）

（A5判・一七〇頁・定価二四二〇円・一麦出版社）

†本・批評と紹介

# 現代に通じる魅力ある言葉を一日にひとつ、箴言から

〈評者〉**與那城初穂**

**これからを生きるあなたへ**
聖書の知恵　箴言31日
小林よう子著

本書を初めて手にしたのは、高校の図書室でした。「これからを生きるあなたへ」という手書き文字風のタイトル、その隣には木の枝にとまった小鳥の姿。やわらかな色彩であたたかな印象を受ける表紙です。

ところが、サブタイトルに「聖書の知恵　箴言31日」とあります。「箴言」は旧約聖書の知恵文学に属する書物ですので、まさに「聖書の知恵」です。ただ、わたしは苦手意識を持っていましたので、ガードをちょっと固くして本書を開きました。

すると、「はじめに」が次の文で始まっているのが目に入りました。「『箴言』。こんな名前の書物が聖書にあることを知らない人も多いかもしれません。多分、『しんげん』と読めなかったでしょう」。また、わたしが「箴言」に苦手意識を持つ原因である「基盤にある家父長制」に留意し、「上の人の権威には従わなければならない、従って当然、という前提にある言葉は除くことにしました」とも記されています。現代を生きる目の前の読者にやさしく寄り添うような語り口と、遠く隔たった時代や文化を考慮された上で、現代にも通じる知恵を分かち合いたいという著者の姿勢は、最後のページまで変わりません。

著者の小林よう子先生は、教育学部を卒業後、小学校の教師として働かれました。4人のお子さんを育て、現在は牧師と幼稚園の園長を兼任されています。長く子どもたちと接してこられた先生は、箴言の言葉の中に、神と子どもと向き合う経験豊かな生身の大人の姿を見出します。言葉は励ましや慰め、苦言や叱責など様々ですが、それは子どもたちにこれからの人生を生き抜いてほしい、幸せになってほしいという願いからでしょう。それは成功体験からだ

けではなく、失敗体験からも来ているはずです。幸せや悲しみ、苦悩する時もあるのが人生です。そこから生み出された知恵の言葉たちだということに著者は気づかせてくれます。

本書は、「箴言」を構成する全31章の各章から、1つずつ言葉を選び、その言葉が伝えようとすることを見開き2ページでまとめています。この2ページが1日分ですので、毎日読み進めば1か月で読み終わります。読むのに時間はかかりませんが、それぞれの言葉について語られたり、問われたりする内容は余韻を残します。今を生きる読者がそれぞれ言葉を受け取るためのヒントを提示しているためです。著者の経験談に自分の経験を重ねて納得することもあれば、著者とは少し違うとらえ方をしたり、問いを深めたりすることもできます。

たとえば、1日目、1章からは7節の「主を畏れることは知識の初め」（聖書協会共同訳）が選ばれています。箴言で最も有名な言葉ですが、難しそうです。けれども著者は好奇心旺盛な2歳の子どもの姿を通して、この言葉を読んでいます。著者が園長を務める幼稚園の2歳児保育で出会う子どもたちかもしれません。その上で、「人間には理解できないことがあり、決してできないことがあると知ることです。そういう限界を知っていてこそ、生きていくうえでの本当の知識が持てる」と語ります。膨大な情報が消費され、限界を限界と認識しながらも、課題を先送りにし、自分さえ今さえよければ良いという自己中心的な生き方を止められないわたしたち人間の姿が浮かびました。若い人たちと接していると、成長してほしいと願って無限の可能性に言及しがちですが、同時に何を伝えなくてはならないのかを考えさせられます。

今年は能登半島地震で始まりました。世界各地では戦争や紛争が収まる気配もありません。困難の多い時代に「これからを生きる」若い人たちは、歩みを進めていきます。これまでを生きてきた大人たちが経験しないような山や谷もあるかもしれません。絶対成功する正解はありません。けれども「神はそれをちゃんと見ていてくださる」（77頁）のです。単なる処世術ではない現代に生きる「箴言」の魅力ある言葉を、これからを生きる若い方へ、そしてあなた自身にも贈ってみませんか。

（よなしろ・はつほ＝敬和学園高校聖書科教員）

（四六判・八〇頁・定価一三二〇円・日本キリスト教団出版局）

■日本キリスト教団出版局
皆川達夫セレクション

## 宗教音楽の手引き

樋口隆一監修

キリスト教と音楽は密接につながっている。グレゴリオ聖歌をはじめ宗教曲の多彩なジャンルを解説。帰天4周年・著者の息遣いを感じるやさしい宗教音楽史入門。

四六判・128頁・定価1540円

## 「敬神愛人」をめぐる系譜と群像

――「建学の精神」の源泉をたずねて

名古屋学院大学キリスト教センター編

創立者クライン、社会運動家モルフィ、内村鑑三、大学初代学長福田敬太郎…大学創立60周年を迎える名古屋学院に関わった四人に建学の精神「敬神愛人」の源泉を辿る。

A5判・298頁（予定）・定価4400円

## 三浦綾子　祈りの世界

三浦綾子文
おちあいまちこ写真

前作『三浦綾子　祈りのことば』に続き、31編の祈りと短文「祈りの姿」を収録。おちあいまちこの美しい写真とのカラーコラボ企画第二弾。

変型A5判・80頁・予価1400円

INFORMATION
近刊情報

■新教出版社

## 排斥と抱擁

――アイデンティティ・他者性・和解についての神学的探求

ミロスラフ・ヴォルフ著
彦田理矢子訳

異質な者を憎悪し、排斥しようとする者を、私はどのようにして愛し、抱擁することが可能なのか。暴力が猛威を振るう世界の中で和解の道はあるのか。凄惨な旧ユーゴ内戦を経験した著者は、本書を、自らの知的葛藤の記録であると同時に霊的旅路の記録とも呼ぶ。『クリスチャニティ・トゥデイ』誌が「20世紀で最も影響力のある100冊」に選んだ書の待望の邦訳。

A5判・552頁・予価7700円

■教文館

## 義認の福音

――エキュメニズムを目指す神学的研究

E・ユンゲル著
佐々木勝彦訳

『義認の教理に関する共同声明』は、本当に「教会の分裂を克服するための決定的な一歩」なのか？　神学的論点のみならず、現代の聖書解釈と宣教の諸課題をも詳察した、「義認論」を学ぶための最良の手引き！

A5判・386頁・定価5390円

| 書店名 | 郵便番号 | 住　所 | 電　話 | ファックス | URL | メール | 郵便振替 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 北海道キリスト教書店 | 060-0807 | 札幌市北区北七条西６丁目 | 011-737-1721 | 011-747-5979 | http://www.jb-shop.com | sasaki@jb-shop.com | 02770-2-56520 |
| 善隣館書店 | 020-0025 | 盛岡市大沢川原3-2-37 | 019-654-1216 | 共用 | | zenrinkan_syoten_0530@yahoo.co.jp | 02350-0-874 |
| エッサイの木 | 980-0012 | 仙台市青葉区錦町1-13-6　エマオ1F | 022-223-2736 | 022-302-6678 | https://sendaicbs.uccj.jp/ | info@sendaicbs.uccj.jp | 02230-0-31152 |
| 恵泉書房 | 260-0021 | 千葉市中央区新宿2-8-2　千葉クリスチャンセンタービル | 043-238-1224 | 043-247-3072 | http://www.keisen.christian.jp | keisen@vesta.ocn.ne.jp | 00120-9-43619 |
| 教文館 | 104-0061 | 東京都中央区銀座4-5-1 | 03-3561-8448 | 03-3563-1288 | http://www.kyobunkwan.co.jp | xbooks@kyobunkwan.co.jp | 00120-2-11357 |
| 待晨堂 | 167-0053 | 東京都杉並区西荻南3-16-1 | 03-3333-5778 | 共用 | http://taishindo-books.jimdo.com/ | taishindo@jcom.home.ne.jp | 00110-8-95827 |
| バイブルハウス南青山 | 104-0061 | 東京都中央区銀座4-5-1 | 03-3567-1995 | 03-3567-4435 | http://biblehouse.jp | biblehouse@bible.or.jp | 00160-2-18410 |
| 東京キリスト教書店 | 162-0814 | 東京都新宿区新小川町9-1日キ販内（外販専門） | 03-3260-5663 | 03-3260-5637 | | tokyo@nikkihan.co.jp | 00130-3-60976 |
| 横浜キリスト教書店 | 231-0063 | 横浜市中区花咲町3-96 | 045-241-3820 | 045-241-5881 | http://www7b.biglobe.ne.jp/~yokohama-cbs/index.html | sksch@mva.biglobe.ne.jp | 00250-4-2512 |
| 清光書店 | 951-8114 | 新潟市営所通一番町313 | 025-229-0656 | 共用 | | | 00560-8-51419 |
| 静岡聖文舎 | 420-0866 | 静岡市葵区西草深町20-26 | 054-260-6644 | 054-260-5612 | http://www.s-seibun.co.jp/ | info@s-seibun.co.jp | 00810-8-26558 |
| 名古屋聖文舎 | 466-0045 | 名古屋市昭和区丸屋町3-16 日本キリスト教団東海教会内 | 052-680-8090 | 052-680-8091 | http://nagoya-seibunsha.la.coocan.jp/ | nagoya-seibunsha@nifty.com | 00810-5-14073 |
| 京都ヨルダン社 | 602-0854 | 京都市上京区荒神口通河原町東入ル | 075-211-6675 | 075-211-2834 | http://web.kyoto-inet.or.jp/people/ktjordan/ | ktjordan@mbox.kyoto-inet.or.jp | 01010-2-594 |
| 大阪キリスト教書店 | 530-0013 | 大阪市北区茶屋町2-30 | 06-6377-6026 | 06-6377-6027 | http://osakacbs.web.fc2.com/ | ochrbook@river.ocn.ne.jp | 00990-3-43009 |
| 神戸キリスト教書店 | 650-0021 | 神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F | 078-331-7569 | 078-945-9388 | | kobex@nikkihan.co.jp | 00170-2-421390 |
| 広島聖文舎 | 730-0841 | 広島市中区舟入町12-7 | 082-208-0022 | 082-208-0177 | | hseibun0951@yahoo.co.jp | 01360-4-1958 |
| リバーサイドブックス | 779-1105 | 徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道ノ西13 | 090-8694-4986 | 050-3142-3017 | | ykwbt3@gmail.com | 16220-17974891 |
| 松山キリスト教書店 | 790-0804 | 松山市中一万町1-23 | 089-921-5519 | 089-921-5413 | http://www.geocities.jp/matsuyama_1007/index.html | sksch@dokidoki.ne.jp | 01650-1-2120 |
| 新生館 | 810-0073 | 福岡市中央区舞鶴2-7-7 | 092-712-6123 | 092-781-5484 | http://www.sinseikan.jp/ | info@sinseikan.jp | 01750-5-10932 |
| キリスト教書店ハレルヤ | 862-0971 | 熊本市大江4-20-23 | 096-372-3503 | 共用 | | k-haleruya@bible.or.jp | 00160-2-18410 |
| 沖縄キリスト教書店 | 904-2143 | 沖縄県沖縄市知花４丁目12-33 | 098-927-0220 | 098-938-1102 | https://www.okinawacbs.net | info@okinawacbs.net | 01790-4-152916 |

※一般書店関係の方は　日キ販営業部　℡ 03-3260-5670 にご連絡ください。

# 福音と世界

2024年5月号

**特集＝バルメン宣言90年**

**寄稿者＝寺園喜基、平林孝裕、岡田仁、秋永好晴、小海基、吉田新、バルメン宣言（平林孝裕訳）**

日本基督教団と北森神学（**川口葉子**）**新連載**　証言としての旧約聖書（**田島卓**）、**好評連載**　八木重吉の聖書（**今高義也**）、新約釈義ルカ福音書（**山﨑ランサム和彦**）、古代イスラエル文学史序説（**勝村弘也**）ほか　**書評**　山口里子『マルコ福音書をジックリと読む』（**高橋哲哉**）

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社　TEL：03-3260-6148

Email: sales@shinkyo-pb.com


## 編集室から

遅ればせながらといいますか、この度洗礼を受けることになりました。受洗するなら昨年急逝した母が長年通っていたカトリック教会でとかねてから思っていたので相談したところ、イースターに成人志願者の洗礼式を行うのが通例とのこと。今度のイースターで受洗すべくやや急ピッチで準備を進めてきました。

信仰や典礼の意味、教会用語・習慣等についての学びがその中心なのですが、意外に知らないことが多いことに気付かされます。聖書学を学び、文書伝道の分野で働いてきた身としてキリスト教に関する知識はそれなりに持っていたつもりですが、カトリック的なボキャブラリーや実地の典礼、信仰生活のこと等にはあまり触れてきませんでした。

それと共に、これまで得た知識やキリスト教理解が学びの助けとなっているのも実感できます。自分の知識体系が専門知識先行の些かアンバランスなものだとの自覚はあるので、これを機にもう少し血肉を伴った理解に統合できるのではないかと期待しています。

かつて新約学で師事した師が、洗礼を受けるまではキリスト教に対して「傍観者」のような立場だったが、洗礼を受けてからは自分のこととして考えられるようになり、良い意味で遠慮がなくなったと話していたことを思い出しました。洗礼によって自分の中に何か変化が起こるのかは今のところわかりませんが、これまでキリスト教に対してどこか「傍観者」のような立場だったのが「当事者」の一人になるわけです。まずはその変化を楽しみたいと思います。

（村上）

**予告**

**本のひろば**

**2024年6月号**

**本・批評と紹介**

（巻頭エッセイ）菅原裕治（書評）小見のぞみ著『聖書のお話を子どもたちへ』、矢田部千佳子著『愛に祈る人』、浅野忠利著『修道院からモダニズムへ』、齋藤五十三著『神の子とする恵み』、キリシタン文化研究会監修『キリシタン１６２２』、大頭眞一と焚き火を囲む仲間たち編著『聖化の再発見』他

**新教出版社** 〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1 Tel: 03-3260-6148 / Fax: 03-3260-6198
HP：http://www.shinkyo-pb.com、メール：eigyo@shinkyo-pb.com

# 奴隷より身を起して

**ブッカー・T・ワシントン自伝**

**ブッカー・T・ワシントン著／佐柳文男、佐柳光代訳／大森一輝解説**

20世紀初頭の米国で最も著名な黒人だったワシントンの自伝。奴隷として生まれた少年が志を立て、苦学力行の末に成功していく過程を、生き生きと語る。黒人「保守派」の元祖と目される人物の自画像を通じて、差別社会への闘争と同化の微妙な狭間を考えさせられる。大森一輝氏（北海学園大学）によるワシントンの評価・受容をめぐる充実した解説を付す。

**3月29日**

◆四六判・定価2860円

# われら主の僕

**リベラルアーツの森で育まれ**

**ICU伝道献身者の会編**

**反響！**

献学以来3万人の卒業生を送り出してきた国際基督教大学は、牧師をはじめ数多くの福音伝道者を輩出してきたことでもよく知られる。この特異な学舎で彼らの献身の志はいかにして育まれたのか。70名余りの卒業生の、遺稿も交えて記される興味尽きない証し。【寄稿者の一部】松永希久夫、小澤貞雄、新保満、竹前昇、原崎百子、川田殖、荒瀬正彦、齋藤和明、並木浩一、棟居勇、伊藤瑞男、斎藤剛毅、渡邉正男、絹川久子、長沢道子、左近和子、田中弘志、浅井重郎、吉馴明子、宮崎彌男、矢澤俊彦、青野太潮、安積力也、梅津順一、栗林輝夫ほか

◆A5判・定価2310円

# 教会論と終末論

**サクラメントと終末論を視野に入れた教会論**

**松田 央著**（著者は神戸女学院大学名誉教授）

**キリスト教信仰の根本を求めて**

イエスの言行に現わされた福音を信じ、教会生活を通して信仰を実践し、終末を待ち望む――この道筋を聖書に即して分かりやすく解説。キリスト論、教会論、特にサクラメント論、そして終末論を学ぶための好著。著者による積年の探求の成果。

◆四六判・定価2200円

# 旧約聖書 預言書 要約と概説

**宮平 望著**

**教会に１セット！**◆A5判・定価 2530 円

旧約聖書の全文書を、章ごとヘブライ語原典に基づき要約、新約聖書の視点からメッセージを解読する。創見に満ちた解釈を随所に盛り込み、聖書通読と学びが楽しくなる。旧約の複雑多様な世界を読みための進める好個の手引き。

**全４冊完結** **律法書**（2200 円）、**歴史書**（2200 円）、**文学書**（2090 円）

本のひろば　第七九七号　二〇二四年五月号
一九五七年七月一七日　第三種郵便物認可
二〇二四年五月一日発行（毎月一回一日発行）
発行所　〒162-0814　東京都新宿区新小川町九－一　一般財団法人キリスト教文書センター
電話〇三－三二六〇－六五二〇　振替〇〇一七〇－五－一一六七九
発行人　金子和人　編集人　村上信児　印刷所　モリモト印刷㈱
発売所　日本キリスト教書販売株式会社　電話〇三－三二六〇－五六七〇
定価七八円（税抜七一円）（〒63円）
一年分一三〇〇円（送料共）


## 日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 TEL03-3204-0422 FAX03-3204-0457
e-mail eigyou@bp.uccj.or.jp　ホームページ https://bp-uccj.jp《価格10%税込》

### 皆川達夫セレクション
# 宗教音楽の手引き

皆川達夫　樋口隆一 監修

グレゴリオ聖歌、ポリフォニー、ミサ曲、コラール、カンタータ、オラトリオ、かくれキリシタンのオラショまでキリスト教音楽の多彩なジャンルをやさしく解説。著者の息遣いを感じる宗教音楽史入門。

**◆四六判 並製・128頁・定価1,540円**　2024年4月19日刊行予定

好評発売中　『キリシタン音楽入門 ―洋楽渡来考への手引き』
皆川達夫　定価1,760円

# 三浦綾子 祈りの世界

三浦綾子 文
おちあいまちこ 写真

三浦綾子の祈りは今も色褪せず、生き生きと心に飛び込んでくる。そうした祈り32編におちあいまちこの写真を添える。さらに短文「祈りの姿」を収録。

**◆A5判変型 並製・80頁・定価1,540円**　2024年4月25日刊行予定

好評発売中　『三浦綾子　祈りのことば』
おちあいまちこ 写真　定価1,320円

## 電子書籍版のご案内

主要な電子書籍ストアでお求めいただけます！

# ヨブ記を読もう
## 苦難から自由へ

並木浩一

ヨブ記の難解なテクストの背後にある思考をやさしく解きあかす。　**◆定価2,640円**

詳細はWEBで

本のひろば.com